



## 2022 年度 日本医科大学 後期

### 【 講 評 】

出題数、出題形式ともに例年通りで変化はなかった。解法に迷うような問題は少なかったが、計算量が多く、得点に結びつけるのは容易ではない。以下、大問ごとに特徴を述べる。

- [I] 多項式の割り算の余りに関する問題であった。二項定理を用いて剰余の部分把握すればよい。文字や項が多く、やや計算が面倒であるが、典型的な問題なので、確実に得点したい問題である。また、3点が同一直線上にあり、 $x$  座標が等差数列であることから、 $y$  座標も等差数列になればよいことは容易に読み取れるだろう。
- [II] 問1は確率、問2は確率に関する極限と、いずれも簡単な問題であるため落とせない。問3はやや計算が面倒であるが、問題文に  $e$  の定義式を用いる指示があるため、これに従って式変形できればよい。
- [III] 空間図形（ベクトル）に関する最大・最小問題であった。問1は点  $P$  の内分比をベクトルで求める典型問題であるから、確実に得点したい。問2は四面体の対称面に注目できるかどうかポイントであるが、苦手とする人も多いテーマであるため、差がつくだろう。問3は問2までができていれば容易だが、問4は与えられた内積の条件処理が難しく、最後まで解ききれなかった人が多いだろう。受験生の出来が悪い大問であることが予想される。
- [IV] 数Ⅲの微分法、積分法に関する問題であった。問1の法線の方程式は問題ないだろう。問2は法線の交点の極限を求めることになるが、微分係数の定義式を用いることに気付けるかどうかポイントで、ここで差がつくだろう。問3は問2が解ければ簡単な計算問題である。問4はここまでの結果を用いて定積分計算を行うだけであるが、やや計算力や発想力が必要となるため、得点できた人は少ないだろう。

全体的な難易度は昨年と同程度である。全体で6割程度の得点を目指したい。

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

【 解 答 】

[I] 式と証明 (数II) / 数列 (数B) 【標準】

- 問1 ア: 2, イ: 1, ウ: 2, エ: 1, オ: 2, カ: 4, キ: 4, ク: 4, ケ: 4,  
コ: 6, サ: 4, シ: 2, ス: 3, セ: 2, ソ: 2, タ: 1, チ: 2,  
問2 ツ: 3, テ: 2, ト: 3

[II] 確率 (数A) / 極限 (数III) 【標準】

- 問1 ア: 3, イ: 4, ウ: 2, エ: 3, オ: 3, カ: 2, キ: 1, ク: 1, ケ: 2,  
コ: 3, サ: 4,  
問2  $\alpha = \frac{3}{4}$   
問3  $\beta = e$

[III] ベクトル (数B) / 図形と計量 (数I) / 2次関数 (数I) 【やや難】

- 問1  $\frac{DP}{AP} = 3$   
問2  $\frac{2}{3}l \leq x < l$   
問3  $V = \frac{2}{9}lx\sqrt{l^2 - x^2}$   
問4  $\sqrt{2} \leq l$  のとき  $V_{\max} = \frac{l^3}{9}$ ,  $\frac{\sqrt{6}}{2} \leq l < \sqrt{2}$  のとき  $V_{\max} = \frac{2l\sqrt{-l^4 + 3l^2 - 1}}{9(3 - l^2)}$

[IV] 微分法・積分法 (数III) 【標準】

- 問1  $y = -\frac{1}{f'(t)}x + \frac{t}{f'(t)} + f(t)$   
問2 ア:  $\frac{\{f'(t)\}^3 + f'(t)}{f''(t)}$ , イ:  $\frac{\{f'(t)\}^2 + 1}{f''(t)}$   
問3  $R(t) = \frac{(\{f'(t)\}^2 + 1)^{\frac{3}{2}}}{f''(t)}$   
問4  $\frac{\sqrt{3}}{2} - \sqrt{\frac{e-1}{e}}$

【 問 題 】

[ I ]

以下の文中の [ア] ~ [ト] に適する 1 以上の整数を解答欄に記入せよ. なお, 分数形で解答する場合は, 既約分数で答えること.

問 1 3 以上の整数  $m$  と実数  $a$  (ただし,  $a \neq 2$ ) に対し,  $x$  の  $m$  次式  $(2x-a)^m$  を  $(x-1)^3$  で割ったときの余りを

$$(2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^3 P_n(m) x^{3-n}$$

と表すとき,  $m$  の 2 次式  $P_n(m)$  ( $n=1, 2, 3$ ) を平方完成した形で求めると,

$$P_1(m) = \text{[ア]} \left( m - \frac{\text{[イ]}}{\text{[ウ]}} \right)^2 - \frac{\text{[エ]}}{\text{[オ]}}$$

$$P_2(m) = -\text{[カ]} \left( m - \frac{\text{[キ]} - a}{\text{[ク]}} \right)^2 + \frac{a^2 - \text{[ケ]}a + \text{[コ]}}{\text{[サ]}}$$

$$P_3(m) = \text{[シ]} \left( m - \frac{\text{[ス]} - a}{\text{[セ]}} \right)^2 + \frac{a^2 - \text{[ソ]}a - \text{[タ]}}{\text{[チ]}}$$

となる.

問 2 問 1 において, 数列

$$\frac{\text{[イ]}}{\text{[ウ]}}, \frac{\text{[キ]} - a}{\text{[ク]}}, \frac{\text{[ス]} - a}{\text{[セ]}}$$

は初項  $\frac{\text{[イ]}}{\text{[ウ]}}$ , 公差  $\frac{\text{[ツ]} - a}{\text{[テ]}}$  の等差数列となる. また座標平面上の 3 点

$$\left( \frac{\text{[イ]}}{\text{[ウ]}}, -\frac{\text{[エ]}}{\text{[オ]}} \right), \left( \frac{\text{[キ]} - a}{\text{[ク]}}, \frac{a^2 - \text{[ケ]}a + \text{[コ]}}{\text{[サ]}} \right), \left( \frac{\text{[ス]} - a}{\text{[セ]}}, \frac{a^2 - \text{[ソ]}a - \text{[タ]}}{\text{[チ]}} \right)$$

が同一直線上にあるための  $a$  に対する必要十分条件は  $a = \text{[ト]}$  である.

[Ⅱ]

$n$  を 3 以上の整数とする. 中が見えない袋の中に白球が  $n$  個, 黒玉が  $n$  個, 赤球が 3 個入っており, 袋の中から 3 個の球を無作為に同時に取り出す試行を行う. 取り出した 3 個の球の色の種類が 2 である確率を  $p_n$  とする. また, 取り出した 3 個の球の色の種類が 2 であり, かつその 3 個の球に赤球が含まれない確率を  $q_n$  とする. このとき, 以下の各問いに答えよ. また, 以下の [ア] ~ [サ] に適する 1 以上の整数を解答欄に記入せよ. ただし, 分数形で解答する場合は, 既約分数で答えること.

問 1 数列  $\{p_n\}$  の一般項を求めると

$$p_n = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}} \frac{n^3 + \boxed{\text{ウ}}n^2 + \boxed{\text{エ}}n}{\left(n + \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}}\right)\left(n + \boxed{\text{キ}}\right)\left(n + \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}}\right)} \quad \left(\text{ただし, } \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} > \boxed{\text{キ}} > \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}}\right)$$

となる.

問 2 数列  $\{q_n\}$  の極限を  $\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} q_n$  とすると,  $\alpha = \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}$  となる.

問 3 問 2 の  $\alpha$  に対し, 極限  $\beta = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{\alpha}{p_n}\right)^n$  の値を求めよ. 必要ならば自然対数の底の定義

$$e = \lim_{t \rightarrow 0} (1+t)^{\frac{1}{t}} \quad (\text{ただし, } t \text{ は実数}) \text{ を用いてよい.}$$

[Ⅲ]

実数の定数  $l$  は  $l \geq \frac{\sqrt{6}}{2}$  を満たすとする. 四面体 ABCD において,  $AB = AC = BD = CD = l$ ,

辺 AB を 1 : 5 に内分する点を L, 辺 BC の中点を M, 辺 CD を 5 : 3 に内分する点を N とし, これら 3 点で定まる平面 LMN と直線 AD との交点を P とする. また, 点 P から平面 BCD に垂線 PH を下ろしたとき,  $PH = \frac{l}{2}$  であるとする.  $x = AM$  とおき, 四面体 ABCD の体積を  $V$  として, 以下の各問いに答えよ.

問 1  $\frac{PD}{AP}$  を求めよ.

問 2  $x$  がとりうる値の範囲を求めよ. 答えのみでよい.

問 3  $V$  を  $l$  と  $x$  を用いて表せ. 答えのみでよい.

問 4  $l$  を固定して,  $\overrightarrow{MA} \cdot \overrightarrow{MD} \geq 0$  かつ  $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} \geq \frac{2}{3}$  を満たすように  $x$  を動かすとき,  $V$  の最大値  $V_{\max}$  を求めよ.

[IV]

関数  $f(x)$  ( $x > 0$ ) は連続で、第 1 次導関数  $f'(x)$  が存在して連続で、第 2 次導関数  $f''(x)$  が存在し、かつ  $f'(x) > 0$ ,  $f''(x) > 0$  を満たすと仮定する. 座標平面において、曲線  $C: y = f(x)$  上の点  $A(t, f(t))$  における  $C$  の法線と、点  $B(t+h, f(t+h))$  ( $h \neq 0$ ) における  $C$  の法線の交点を  $P(h)$  とおく.  $h$  を  $0$  に限りなく近づけると、点  $P(h)$  が限りなく近づく点を  $P$  とする. また、2 点  $A, P$  の距離を  $R(t)$  とおく.

問 1 点  $A(t, f(t))$  における  $C$  の法線の方程式を、 $t, f(t), f'(t)$  を用いて表せ. 答えのみでよい.

問 2 点  $P$  の座標を以下の形で求めよ.

$$(t - \boxed{\text{ア}}, f(t) + \boxed{\text{イ}})$$

問 3  $R(t)$  を求めよ. 答えのみでよい.

問 4 以上の結果を用いて、関数  $f(x) = \int_0^x \sqrt{e^{2t} - 1} dt$  ( $x > 0$ ) に対して、次の定積分  $I$  の値を求めよ.

$$I = \int_{\frac{1}{2}}^{\log 2} \frac{1}{R(t)} dt$$

【 解 説 】

[ I ]

問 1 二項定理により

$$\begin{aligned}
 (2x-a)^m &= \{2(x-1) + (2-a)\}^m \\
 &= \sum_{k=0}^{m-3} {}_m C_k \{2(x-1)\}^{m-k} (2-a)^k + {}_m C_2 \{2(x-1)\}^2 \cdot (2-a)^{m-2} + {}_m C_1 2(x-1)(2-a)^{m-1} + {}_m C_0 (2-a)^m \\
 &= \sum_{k=0}^{m-3} {}_m C_k \{2(x-1)\}^{m-k} (2-a)^k + (2-a)^{m-2} \{2m(m-1)(x-1)^2 + 2m(x-1)(2-a) + (2-a)^2\} \\
 &= \sum_{k=0}^{m-3} {}_m C_k \{2(x-1)\}^{m-k} (2-a)^k + (2-a)^{m-2} [(2m^2 - 2m)x^2 + \{-4m^2 + (8-2a)m\}x \\
 &\qquad\qquad\qquad + 2m^2 - 2(3-a)m + (a-2)^2]
 \end{aligned}$$

このとき,  $\sum_{k=0}^{m-3} {}_m C_k \{2(x-1)\}^{m-k} (2-a)^k$  は,  $m-k \geq 3$  より  $(x-1)^3$  で割り切れる.

$(2x-a)^m$  を  $(x-1)^3$  で割った余りは

$$(2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^3 P_n(m) x^{3-n} = (2-a)^{m-2} \{P_1(m)x^2 + P_2(m)x + P_3(m)\}$$

であるから, これと比較すると

$$P_1(m) = 2m^2 - 2m = 2\left(m - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{2}$$

$$P_2(m) = -4m^2 + (8-2a)m = -4\left(m - \frac{4-a}{4}\right)^2 + \frac{a^2 - 8a + 16}{4}$$

$$P_3(m) = 2m^2 - 2(3-a)m + (a-2)^2 = 2\left(m - \frac{3-a}{2}\right)^2 + \frac{a^2 - 2a - 1}{2}$$

問 2 数列  $\frac{1}{2}, \frac{4-a}{4}, \frac{3-a}{2}$  について

$$\frac{4-a}{4} - \frac{1}{2} = \frac{2-a}{4}, \quad \frac{3-a}{2} - \frac{4-a}{4} = \frac{2-a}{4}$$

よって, 初項  $\frac{1}{2}$ , 公差  $\frac{3-a}{2}$  の等差数列である.

また, 座標平面上の 3 点  $\left(\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right), \left(\frac{4-a}{4}, \frac{a^2-8a+16}{4}\right), \left(\frac{3-a}{2}, \frac{a^2-2a-1}{2}\right)$

について,  $x$  座標がこの順で等差数列をなすから, 同一直線上にあるための必要十分条件は,  $y$  座標もこの順で等差数列をなすことである. したがって

$$2 \cdot \frac{a^2-8a+16}{4} = -\frac{1}{2} + \frac{a^2-2a-1}{2}$$

$$a^2 - 8a + 16 = a^2 - 2a - 2$$

$$6a = 18 \quad \therefore a = 3$$

**別解** 問1の余りは、割り算の恒等式を用いて求めてもよいが、計算は面倒になる。

$(2x-a)^m$  を  $(x-1)^3$  で割ったときの商を  $Q(x)$  とおくと

$$(2x-a)^m = (x-1)^3 Q(x) + (2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^3 P_n(m) x^{3-n} \quad \dots\dots ①$$

①式の両辺を  $x$  で微分すると

$$2m(2x-a)^{m-1} = 3(x-1)^2 Q(x) + (x-1)^3 Q'(x) + (2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^2 (3-n) P_n(m) x^{2-n} \quad \dots\dots ②$$

②式の両辺を  $x$  で微分すると

$$\begin{aligned} 4m(m-1)(2x-a)^{m-2} &= 6(x-1)Q(x) + 3(x-1)^2 Q'(x) + 3(x-1)^2 Q'(x) + (x-1)^3 Q''(x) \\ &\quad + (2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^1 (3-n)(2-n) P_n(m) \\ &= 6(x-1)Q(x) + 3(x-1)^2 Q'(x) + 3(x-1)^2 Q'(x) + (x-1)^3 Q''(x) \\ &\quad + 2(2-a)^{m-2} P_1(m) \quad \dots\dots ③ \end{aligned}$$

③式の両辺に  $x=1$  を代入すると

$$4m(m-1)(2-a)^{m-2} = 2(2-a)^{m-2} P_1(m)$$

$a \neq 2$  であるから

$$\begin{aligned} P_1(m) &= 2m(m-1) = 2m^2 - 2m \quad \dots\dots ④ \\ &= 2\left(m - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{2} \end{aligned}$$

②式の両辺に  $x=1$  を代入すると

$$\begin{aligned} 2m(2-a)^{m-1} &= (2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^2 (3-n) P_n(m) \\ &= (2-a)^{m-2} \{2P_1(m) + P_2(m)\} \end{aligned}$$

$a \neq 2$  であるから

$$2m(2-a) = 2P_1(m) + P_2(m)$$

④を代入すると

$$\begin{aligned} P_2(m) &= 2m(2-a) - 2(2m^2 - 2m) = -4m^2 + (8-2a)m \quad \dots\dots ⑤ \\ &= -4\left(m - \frac{4-a}{4}\right)^2 + \frac{a^2 - 8a + 16}{4} \end{aligned}$$

①式の両辺に  $x=1$  を代入すると

$$\begin{aligned} (2-a)^m &= (2-a)^{m-2} \sum_{n=1}^3 P_n(m) \\ &= (2-a)^{m-2} \{P_1(m) + P_2(m) + P_3(m)\} \end{aligned}$$

$a \neq 2$  であるから

$$(2-a)^2 = P_1(m) + P_2(m) + P_3(m)$$

④, ⑤を代入すると

$$\begin{aligned} P_3(m) &= (2-a)^2 - (2m^2 - 2m) - \{-4m^2 + (8-2a)m\} \\ &= 2m^2 - (6-2a)m + (2-a)^2 \\ &= 2\left(m - \frac{3-a}{2}\right)^2 + \frac{a^2 - 2a - 1}{2} \end{aligned}$$

**別解** 終わり

[II]

問1  $p_n$  に対応する事象の余事象は、取り出した3個の球の色の種類が3または1であることである。

取り出した3個の球の色の種類が3であるのは、各色の球を1つずつ取り出すときであるから、

$$\text{その確率は } \frac{{}_n C_1 \times {}_n C_1 \times {}_3 C_1}{{}_{2n+3} C_3} = \frac{3n^2}{{}_{2n+3} C_3}$$

また、取り出した3個の球の色の種類が1であるのは、1色の球を3個取り出すときであるから、

$$\text{その確率は } \frac{{}_n C_3 + {}_n C_3 + {}_3 C_3}{{}_{2n+3} C_3} = \frac{2_n C_3 + 1}{{}_{2n+3} C_3}$$

$$\begin{aligned} \text{よって, } p_n &= 1 - \left( \frac{3n^2}{{}_{2n+3} C_3} + \frac{2_n C_3 + 1}{{}_{2n+3} C_3} \right) = 1 - \frac{n^3 + 6n^2 + 2n + 3}{(2n+3)(n+1)(2n+1)} \\ &= \frac{3n^3 + 6n^2 + 9n}{{(2n+3)(n+1)(2n+1)}} = \frac{3}{4} \cdot \frac{n^3 + 2n^2 + 3n}{\left(n + \frac{3}{2}\right)(n+1)\left(n + \frac{1}{2}\right)} \end{aligned}$$

問2 白球を  $a$  個, 黒玉を  $b$  個, 赤球を  $c$  個取り出すことを  $(a, b, c)$  と表す。

取り出した3個の球の色の種類が2であり、かつその3個の球に赤球が含まれないのは  $(2, 1, 0)$  または  $(1, 2, 0)$  のときであるから、その確率は

$$q_n = \frac{{}_n C_2 \times {}_n C_1 + {}_n C_1 \times {}_n C_2}{{}_{2n+3} C_3} = \frac{6n^2(n-1)}{(2n+3)(2n+2)(2n+1)} = \frac{3n^2(n-1)}{(2n+3)(n+1)(2n+1)}$$

$$\text{よって } \alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} q_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{3\left(1 - \frac{1}{n}\right)}{\left(2 + \frac{3}{n}\right)\left(1 + \frac{1}{n}\right)\left(2 + \frac{1}{n}\right)} = \frac{3}{4}$$

$$\begin{aligned} \text{問3 } \left(\frac{\alpha}{p_n}\right)^n &= \left\{ \frac{\left(n + \frac{3}{2}\right)(n+1)\left(n + \frac{1}{2}\right)}{n^3 + 2n^2 + 3n} \right\}^n = \left\{ \left(1 + \frac{1}{n}\right) \cdot \frac{\left(n + \frac{3}{2}\right)\left(n + \frac{1}{2}\right)}{n^2 + 2n + 3} \right\}^n \\ &= \left\{ \left(1 + \frac{1}{n}\right) \cdot \frac{\left(n + \frac{3}{2}\right)\left(n + \frac{1}{2}\right)}{\left(n + \frac{3}{2}\right)\left(n + \frac{1}{2}\right) + \frac{9}{4}} \right\}^n = \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n \cdot \frac{1}{\left\{1 + \frac{9}{(2n+3)(2n+1)}\right\}^n} \\ &= \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n \cdot \left[ \frac{1}{\left\{1 + \frac{9}{(2n+3)(2n+1)}\right\}^{\frac{(2n+3)(2n+1)}{9}}} \right]^{\left(2 + \frac{3}{n}\right)\left(2 + \frac{1}{n}\right) \cdot \frac{1}{n}} \end{aligned}$$

ここで、 $\lim_{t \rightarrow 0} (1+t)^{\frac{1}{t}} = e$  より、 $\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{x}\right)^x = e$  が成り立つから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = e, \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{1 + \frac{9}{(2n+3)(2n+1)}\right\}^{\frac{(2n+3)(2n+1)}{9}} = e$$

$$\text{よって } \beta = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{\alpha}{p_n}\right)^n = e \cdot e^{\frac{9}{2 \cdot 2} \cdot 0} = e$$



[Ⅲ]

問1  $\overrightarrow{AB}=\vec{b}$ ,  $\overrightarrow{AC}=\vec{c}$ ,  $\overrightarrow{AD}=\vec{d}$  とすると

$$\overrightarrow{AL}=\frac{1}{6}\vec{b}, \quad \overrightarrow{AM}=\frac{\vec{b}+\vec{c}}{2}, \quad \overrightarrow{AN}=\frac{3\vec{c}+5\vec{d}}{8}$$

点 P は平面 LMN 上にあるから、実数  $s, t, u$  を用いて、次のように表せる。

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AP} &= s\overrightarrow{AL} + t\overrightarrow{AM} + u\overrightarrow{AN} \\ &= \frac{s}{6}\vec{b} + t\left(\frac{\vec{b}+\vec{c}}{2}\right) + u\left(\frac{3\vec{c}+5\vec{d}}{8}\right) = \left(\frac{s}{6} + \frac{t}{2}\right)\vec{b} + \left(\frac{t}{2} + \frac{3}{8}u\right)\vec{c} + \frac{5}{8}u\vec{d} \quad \dots\dots① \end{aligned}$$

ただし、 $s+t+u=1$  ……②

$\vec{b} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{c} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{d} \neq \vec{0}$  かつ  $\vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$  は同一平面上にないから、点 P が AD 上にあるとき

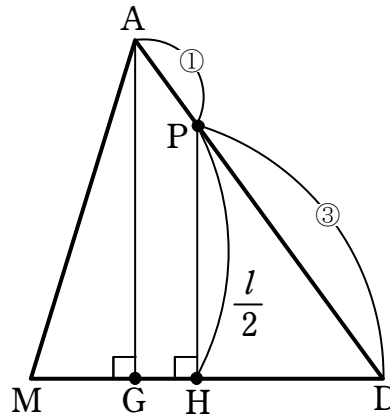
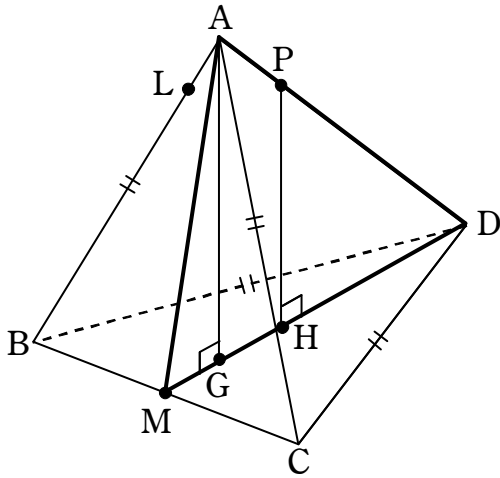
$$\frac{s}{6} + \frac{t}{2} = 0, \quad \frac{t}{2} + \frac{3}{8}u = 0 \quad \therefore s = -3t, \quad u = -\frac{4}{3}t$$

$$\text{これらを②に代入すると} \quad -3t + t - \frac{4}{3}t = 1 \quad \therefore t = -\frac{3}{10}$$

$$\text{このとき} \quad s = \frac{9}{10}, \quad u = \frac{2}{5}$$

$$\text{よって、①より} \quad \overrightarrow{AP} = \frac{1}{4}\vec{d}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{PD}{AP} = 3$$



問2  $AB=AC=l$  より、 $\triangle ABC$  は二等辺三角形であり、 $DB=DC=l$  より、 $\triangle DBC$  も二等辺三角形であるから、 $\triangle AMD$  は四面体  $ABCD$  の対称面である。よって、点 A から  $\triangle BCD$  へ下ろした垂線の足を G とすると、G および H は線分 DM 上にある。

$\triangle DPH \sim \triangle DAG$  であり、 $\frac{DP}{AP} = 3$  より

$$\frac{AG}{PH} = \frac{4}{3} \quad \therefore AG = \frac{4}{3}PH = \frac{4}{3} \cdot \frac{l}{2} = \frac{2}{3}l$$

$\triangle AMG$  について、 $AM \geq AG$  であるから  $x \geq \frac{2}{3}l$

また、 $\triangle ABM$  において、 $AB > AM$  であるから  $l > x$

よって、 $x$  のとりうる値の範囲は  $\frac{2}{3}l \leq x < l$

問3  $DM=AM=x$ ,  $BC=2BM=2\sqrt{l^2-x^2}$  であるから,  $\triangle BCD$  の面積は

$$\frac{1}{2} \cdot x \cdot 2\sqrt{l^2-x^2} = x\sqrt{l^2-x^2}$$

よって, 体積  $V$  は  $V = \frac{1}{3} \cdot x\sqrt{l^2-x^2} \cdot \frac{2}{3}l = \frac{2}{9}lx\sqrt{l^2-x^2}$

問4  $l$  を定数,  $x$  を変数とすると  $V = \frac{2}{9}l\sqrt{x^2l^2-x^4} = \frac{2}{9}l\sqrt{-\left(x^2-\frac{l^2}{2}\right)^2+\frac{l^4}{4}}$

この関数の最大値を求める.

$\vec{MA} \cdot \vec{MD} \geq 0$  より,  $\angle AMD$  は鋭角または直角である.

このとき  $\triangle AMG$  に注目すると

$$MG = \sqrt{AM^2 - AG^2} = \sqrt{x^2 - \frac{4}{9}l^2}$$

よって  $\vec{MA} \cdot \vec{MD} = |\vec{MG}| |\vec{MD}| = x\sqrt{x^2 - \frac{4}{9}l^2}$  .....②

また,  $DB=DC=l$  より  $DM \perp BC$  であることに注意すると

$$\begin{aligned} \vec{AB} \cdot \vec{AD} &= \vec{AB} \cdot (\vec{AM} + \vec{MD}) \\ &= \vec{AB} \cdot \vec{AM} + \vec{AB} \cdot \vec{MD} \\ &= |\vec{AM}|^2 + \vec{MD} \cdot (\vec{MB} - \vec{MA}) \\ &= |\vec{AM}|^2 - \vec{MD} \cdot \vec{MA} \end{aligned}$$

② と  $\vec{AB} \cdot \vec{AD} \geq \frac{2}{3}$  より  $x^2 - x\sqrt{x^2 - \frac{4}{9}l^2} \geq \frac{2}{3}$   $\therefore x^2 - \frac{2}{3} \geq x\sqrt{x^2 - \frac{4}{9}l^2}$

$x \geq \frac{2}{3}l \geq \frac{2}{3} \cdot \frac{\sqrt{6}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{3}$  より  $x^2 \geq \frac{2}{3}$  であるから, 両辺を2乗すると

$$\begin{aligned} \left(x^2 - \frac{2}{3}\right)^2 &\geq x^2 \left(x^2 - \frac{4}{9}l^2\right) \\ -\frac{4}{3}x^2 + \frac{4}{9} &\geq -\frac{4}{9}x^2l^2 \quad \therefore (3-l^2)x^2 \leq 1 \quad \text{.....③} \end{aligned}$$

(I)  $\sqrt{3} \leq l$  のとき

不等式③は常に成り立つから  $\frac{2}{3}l \leq x < l$   $\therefore \frac{4}{9}l^2 \leq x^2 < l^2$

$\frac{4}{9}l^2 < \frac{l^2}{2} < l^2$  であるから,  $V$  は  $x^2 = \frac{l^2}{2}$  のとき最大となり, その最大値は

$$V_{\max} = \frac{2}{9}l\sqrt{\frac{l^4}{4}} = \frac{l^3}{9}$$

(II)  $\frac{\sqrt{6}}{2} \leq l < \sqrt{3}$  のとき

不等式③より  $x^2 \leq \frac{1}{3-l^2}$

ここで  $\frac{l^2}{2} - \frac{1}{3-l^2} = \frac{l^2(3-l^2)-1}{2(3-l^2)} = \frac{-(l^2-2)(l^2-1)}{2(3-l^2)}$

(i)  $\frac{\sqrt{6}}{2} \leq l < \sqrt{2}$  のとき

$\frac{1}{3-l^2} < \frac{l^2}{2}$  であるから、 $V$ は  $x^2 = \frac{1}{3-l^2}$  のとき最大となり、その最大値は

$$V_{\max} = \frac{2}{9}l \sqrt{\frac{1}{3-l^2} \left( -\frac{1}{3-l^2} + l^2 \right)} = \frac{2l\sqrt{-l^4+3l^2-1}}{9(3-l^2)}$$

(ii)  $\sqrt{2} \leq l < \sqrt{3}$  のとき

$\frac{l^2}{2} \leq \frac{1}{3-l^2}$  であるから、 $V$ は  $x^2 = \frac{l^2}{2}$  のとき最大となり、その最大値は

$$V_{\max} = \frac{2}{9}l \sqrt{\frac{l^4}{4}} = \frac{l^3}{9}$$

以上をまとめると

$$\sqrt{2} \leq l \text{ のとき } V_{\max} = \frac{l^3}{9}$$

$$\frac{\sqrt{6}}{2} \leq l < \sqrt{2} \text{ のとき } V_{\max} = \frac{2l\sqrt{-l^4+3l^2-1}}{9(3-l^2)}$$

**別解** 問4の内積の処理は、次のようにやってもよい。

$\angle MAD = \theta$  ( $0 < \theta < \pi$ ) とおく。

$$\vec{MA} \cdot \vec{MD} \geq 0 \text{ より } |\vec{MA}| |\vec{MD}| \cos \theta \geq 0$$

$$\text{よって } \cos \theta \geq 0 \quad \therefore 0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}$$

また、 $AB = AC = l$  より  $\vec{MB} \perp \vec{MA}$ 、 $DB = DC = l$  より  $\vec{MB} \perp \vec{MD}$  であるから

$$\begin{aligned} \vec{AB} \cdot \vec{AD} &= (\vec{MB} - \vec{MA}) \cdot (\vec{MD} - \vec{MA}) \\ &= \vec{MB} \cdot \vec{MD} - \vec{MB} \cdot \vec{MA} - \vec{MA} \cdot \vec{MD} + |\vec{MA}|^2 \\ &= -|\vec{MA}| |\vec{MD}| \cos \theta + |\vec{MA}|^2 \\ &= x^2(1 - \cos \theta) \end{aligned}$$

$$\vec{AB} \cdot \vec{AD} \geq \frac{2}{3} \text{ より } x^2(1 - \cos \theta) \geq \frac{2}{3} \quad \dots\dots ④$$

$$\triangle AMG \text{ において } AM \sin \theta = AG \quad \therefore x \sin \theta = \frac{2}{3}l \quad \dots\dots ⑤$$

$$⑤ \text{ より } \sin \theta = \frac{2l}{3x}$$

$$0 < \theta \leq \frac{\pi}{2} \text{ のとき } \cos \theta \geq 0 \text{ であるから } \cos \theta = \sqrt{1 - \sin^2 \theta} = \sqrt{1 - \frac{4l^2}{9x^2}}$$

$$\text{これを ④ に代入すると } x^2 \left( 1 - \sqrt{1 - \frac{4l^2}{9x^2}} \right) \geq \frac{2}{3}$$

$$x^2 - \frac{2}{3} \geq x^2 \sqrt{1 - \frac{4l^2}{9x^2}} = x^2 \sqrt{1 - \frac{4}{9}l^2}$$

**別解** 終わり

[IV]

問1  $y=f(x)$  上の点A( $t, f(t)$ )における法線の方程式は

$$y-f(t)=-\frac{1}{f'(t)}(x-t) \quad \therefore y=-\frac{1}{f'(t)}x+\frac{t}{f'(t)}+f(t) \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

問2  $y=f(x)$  上の点B( $t+h, f(t+h)$ )における法線の方程式は

$$y=-\frac{1}{f'(t+h)}x+\frac{t+h}{f'(t+h)}+f(t+h) \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

①, ② を連立させると,  $h \neq 0$  のときの交点の  $x$  座標を  $x$  とすれば

$$\begin{aligned} -\frac{1}{f'(t)}x+\frac{t}{f'(t)}+f(t) &= -\frac{1}{f'(t+h)}x+\frac{t+h}{f'(t+h)}+f(t+h) \\ -f'(t+h)x+tf'(t+h)+f(t)f'(t+h) &= -f'(t)x+(t+h)f'(t)+f'(t)f(t+h) \\ \{f'(t+h)-f'(t)\}x &= t\{f'(t+h)-f'(t)\}-f'(t)f'(t+h)\{f(t+h)-f(t)\}-hf'(t) \\ \frac{f'(t+h)-f'(t)}{h}x &= t \cdot \frac{f'(t+h)-f'(t)}{h} - f'(t)f'(t+h) \cdot \frac{f(t+h)-f(t)}{h} - f'(t) \\ \therefore x &= \frac{t \cdot \frac{f'(t+h)-f'(t)}{h} - f'(t)f'(t+h) \cdot \frac{f(t+h)-f(t)}{h} - f'(t)}{\frac{f'(t+h)-f'(t)}{h}} \end{aligned}$$

よって  $\lim_{h \rightarrow 0} x = \frac{tf''(t) - f'(t)f'(t)f'(t) - f'(t)}{f''(t)} = t - \frac{\{f'(t)\}^3 + f'(t)}{f''(t)}$

$x, t$  が定まれば,  $y$  も一意に定まるので, これを ① に代入すると

$$y = -\frac{1}{f'(t)}\left(t - \frac{\{f'(t)\}^3 + f'(t)}{f''(t)}\right) + \frac{t}{f'(t)} + f(t) = f(t) + \frac{\{f'(t)\}^2 + 1}{f''(t)}$$

したがって, 点Pの座標は  $\left(t - \frac{\{f'(t)\}^3 + f'(t)}{f''(t)}, f(t) + \frac{\{f'(t)\}^2 + 1}{f''(t)}\right)$

問3  $f(t)=f, f'(t)=f', f''(t)=f'$  と表す.

$x=t - \frac{(f')^3 + f'}{f''}, y=f + \frac{(f')^2 + 1}{f''}$  であるから

$$\begin{aligned} \{R(t)\}^2 = AP^2 &= \left\{t - \frac{(f')^3 + f'}{f''} - t\right\}^2 + \left\{f + \frac{(f')^2 + 1}{f''} - f\right\}^2 \\ &= \frac{(f')^2\{(f')^2 + 1\}^2 + \{(f')^2 + 1\}^2}{(f'')^2} = \frac{\{(f')^2 + 1\}^3}{(f'')^2} \end{aligned}$$

$f'=f'(t)>0, f''=f''(t)>0$  であるから

$$R(t) = \frac{\{(f'(t))^2 + 1\}^{\frac{3}{2}}}{f''(t)}$$

問4  $f(x) = \int_0^x \sqrt{e^{2t}-1} dt$  より  $f'(x) = \sqrt{e^{2x}-1}$ ,  $f''(x) = 2e^{2x} \cdot \frac{1}{2}(e^{2x}-1)^{-\frac{1}{2}} = \frac{e^{2x}}{\sqrt{e^{2x}-1}}$

これを用いると  $R(t) = \frac{\{(e^{2t}-1)+1\}^{\frac{3}{2}}}{e^{2t} \sqrt{e^{2t}-1}} = e^t \sqrt{e^{2t}-1}$

よって  $I = \int_{\frac{1}{2}}^{\log 2} \frac{1}{R(t)} dt = \int_{\frac{1}{2}}^{\log 2} \frac{1}{e^t \sqrt{e^{2t}-1}} dt$

$\sqrt{e^{2t}-1} = s$  とおくと  $e^{2t} = s^2 + 1$

$e^t > 0$  より  $e^t = \sqrt{s^2+1}$   $\therefore t = \frac{1}{2} \log(s^2+1)$

よって  $\frac{dt}{ds} = \frac{s}{s^2+1}$ , 

$t$	$\frac{1}{2} \rightarrow \log 2$
$s$	$\sqrt{e-1} \rightarrow \sqrt{3}$

したがって  $I = \int_{\sqrt{e-1}}^{\sqrt{3}} \frac{1}{s\sqrt{s^2+1}} \cdot \frac{s}{s^2+1} ds = \int_{\sqrt{e-1}}^{\sqrt{3}} \frac{1}{(s^2+1)^{\frac{3}{2}}} ds$

さらに,  $s = \tan \theta$  ( $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと  $\frac{ds}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ , 

$s$	$\sqrt{e-1} \rightarrow \sqrt{3}$
$\theta$	$\alpha \rightarrow \frac{\pi}{3}$

ただし,  $\tan \alpha = \sqrt{e-1}$  ( $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ) .....③ とする.

よって  $I = \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{(1+\tan^2 \theta)^{\frac{3}{2}}} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta = \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{3}} \cos \theta d\theta = [\sin \theta]_{\alpha}^{\frac{\pi}{3}} = \frac{\sqrt{3}}{2} - \sin \alpha$

③ より  $\sin \alpha = \sqrt{\frac{e-1}{e}}$  であるから  $I = \frac{\sqrt{3}}{2} - \sqrt{\frac{e-1}{e}}$

**別解** 原始関数の形をある程度予想し, 次のように置換すると容易である.

$s = \frac{\sqrt{e^{2t}-1}}{e^t}$  とおくと

$\frac{ds}{dt} = \frac{\frac{e^{2t}}{\sqrt{e^{2t}-1}} \cdot e^t - \sqrt{e^{2t}-1} \cdot e^t}{e^{2t}} = \frac{1}{e^t \sqrt{e^{2t}-1}}$ , 

$t$	$\frac{1}{2} \rightarrow \log 2$
$s$	$\sqrt{\frac{e-1}{e}} \rightarrow \frac{\sqrt{3}}{2}$

よって  $I = \int_{\sqrt{\frac{e-1}{e}}}^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \frac{e^t}{\sqrt{e^{2t}-1}} \cdot \frac{\sqrt{e^{2t}-1}}{e^t} ds$   
 $= \int_{\sqrt{\frac{e-1}{e}}}^{\frac{\sqrt{3}}{2}} ds = [s]_{\sqrt{\frac{e-1}{e}}}^{\frac{\sqrt{3}}{2}} = \frac{\sqrt{3}}{2} - \sqrt{\frac{e-1}{e}}$

**別解** 終わり